

NEWS RELEASE

2016.1.29

今回で8回目の開催

「ポーラ ミュージアム アネックス展 2016 — イメージと人体 —」

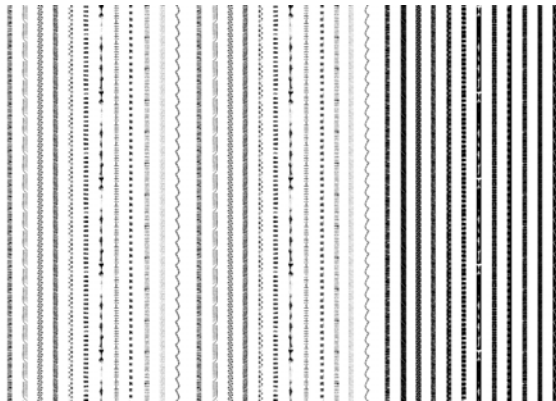
若手アーティスト 4 名によるグループ展 2 月 26 日(金)より

ポーラ ミュージアム アネックス(中央区銀座 1 丁目)では、2016 年 2 月 26 日(金)から 3 月 21 日(月・祝)まで、「ポーラ ミュージアム アネックス展 2016 — イメージと人体 —」を開催します。

本展では過去に公益財団法人ポーラ美術振興財団での若手芸術家の在外研修に対する助成(※)において、採択されたアーティストの作品を展示します。ポーラ ミュージアム アネックスでの発表をきっかけに、今後の活動に活かしていただきたいという趣旨から開始し、今回で 8 回目となります。

今回は『イメージと人体』をテーマに美術評論家の木島俊介氏 監修のもと、4 名の若手アーティストによる個性豊かな作品をご紹介します。今年も前後期に分けて、合計 8 名のアーティストをご紹介します。後期の展覧会概要等の詳細は後日リリースにてご案内します。

※若手芸術家の在外研修に対する助成とは公益財団法人ポーラ美術振興財団が毎年実施している活動のひとつで 35 歳以下のアーティストを対象に海外での研修を援助し日本の芸術分野の専門性を高めていこうとするものです。



左上：ALIMO <爆心地・8/6・犬の散歩>に基づく音楽のためのアニメーション 5 分 2015 年
16mm フィルム、16mm 映写機、スピーカー、写真

右上：加藤大介「gone」2015 年 漆、和紙、銅

左下：近藤聡乃「Kiyakiya」音楽：ジョン・ゾーン カラー シングルチャンネル・アニメーションビデオ 6 分 39 秒
2010-2011 年 Courtesy the artist and Mizuma Art Gallery

右下：西山裕希子「reflection - Mary Magdalene」2015 年 鏡、スライドプロジェクター

【リリースに関するお問い合わせ】株式会社ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室
info-annex@po-holdings.co.jp TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

【読者からのお問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

POLA MUSEUM ANNEX

Ⅱ 展覧会概要 Ⅱ

展覧会名：ポーラ ミュージアム アネックス展 2016 - イメージと人体 -

会 期：2016年2月26日(金) - 3月21日(月・祝)【25日間】*会期中無休

会 場：ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル3階)

アクセス：東京メトロ 銀座一丁目駅 7番出口すぐ

東京メトロ 銀座駅 A9番出口から徒歩6分

JR 有楽町駅 京橋口改札口徒歩5分

主 催：公益財団法人ポーラ美術振興財団

開館時間：11:00 - 20:00 (入場は19:30まで)

入 場 料：無料

Ⅱ 監修者コメント Ⅱ

ポーラ ミュージアム アネックス展は、公益財団法人ポーラ美術振興財団が、1996年以来実施している「若手芸術家の在外研修助成」を受けられた方々の研究の成果をご披露いただく展覧会として毎年開催されてきていて、今回で8回展を迎える。2010年に開催された第1回展は、ポーラ銀座ビルの新たな落成を契機としたため、それを祝う意味から「祝祭」と題されていたが、この主題によって出品作が選ばれていたわけではなく、あくまでもご参加いただいた4人のアーティストそれぞれの自由な創意の発表の場となっていて大いに有意義であった。今回の第8回展にも「イメージと人体」の題が与えられているが深い意味はなく、ただ監修者が出品を依頼する際のおおまかな括りとして、人物像のイメージを探索されている方々を選択したということにしか過ぎず、具体的な出品作はいうまでもなく個々のアーティストに委ねられている。銀座に設けられたこのスペースが、4人の参加者それぞれの個性の照応をもってひとつの普遍性に達すれば幸甚である。

Ⅱ 監修者プロフィール Ⅱ

木島 俊介：ポーラ美術館館長。1939年、鳥取県生まれ。慶応義塾大学文学部卒業、美学・美術史専攻。フィレンツェ大学、ニューヨーク大学大学院、同美術史研究所に学ぶ。群馬県立近代美術館館長および群馬県立館林美術館館長、共立女子大学教授等を務め、現在、同大学名誉教授、東急文化村ザ・ミュージアム プロデューサー。主要著書に、『美しき時祷書の世界』（中央公論社）、『アメリカ現代美術の25人』（集英社）、『女たちが変えたピカソ』（中公文庫）、『名画が愛した女たち 画家とモデルの物語』（集英社）、『クリムトとウィーン』（六耀社）、翻訳書に、『ヨーロッパの装飾芸術 全3巻』（中央公論新社）などがある。

Ⅱ 公益財団法人ポーラ美術振興財団の活動概要 Ⅱ

公益財団法人ポーラ美術振興財団では、美術分野などの若手芸術家及び美術の専門職員に対する助成活動を行っています。主に美術分野における研究活動テーマを広く一般から募集し、有識者で構成される選考委員会によって採択・助成し、日本文化の向上、発展に寄与することを目的に以下の活動を行っています。

【参考資料：平成27年度助成採択内容】

	(採択数)	(助成金額)
(1)若手芸術家の在外研修に対する助成	18件	5,403万円
(2)美術館職員の調査研究に対する助成	12件	2,080万円
(3)美術に関する国際交流の助成	12件	2,091万円

|| 作家プロフィール ||

ALIMO

- 1977年 山口県生まれ
2007年 シュリシティ芸術デザイン学校(バンガロール、インド)留学
2008年 第11回岡本太郎現代芸術賞特別賞
国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS)卒業
2012年 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了
文化庁新進芸術家海外研修制度派遣研修員(エストニア)
2013年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(エストニア)

【主な展覧会 / 映画祭】

- 2012年 「Animated Dreams」(エストニア)
「エチューダ&アニマ国際映画祭」(ポーランド)
「ザグレブ国際アニメーション映画祭2012」(クロアチア)
「バンクーバー国際映画祭」(カナダ)
2013年 「Move on Asia・Video Art in Asia 2002 to 2012」ZKM(ドイツ)
「第16回文化庁メディア芸術祭・アート部門」国立新美術館(東京)
2014年 「Animation goes MSU」ザグレブ現代美術館(クロアチア)
「Video Art Festival Miden」(ギリシャ)
「Daily Reflections」トータル現代美術館(韓国)
「マテリアルとメカニズム」国際芸術センター青森(青森)
「Folkestone Biennale Fringe: UNLOCKING THE DIARY」(イギリス)
2015年 「DOMANI・明日展」国立新美術館(東京)

URL: <http://www.studioalimo.com/>



<爆心地・8/6・犬の散歩>に基づく音楽のための
アニメーション 5分 2015年
16mm フィルム、16mm 映写機、スピーカー、写真

西山裕希子

Yukiko NISHIYAMA

- 1978年 神奈川県生まれ
2012年 公益財団法人吉野美術振興財団在外研修員(ドイツ)
2013年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員(ドイツ)
2013-14年 Universität der Künste Berlin,
Professor Leiko Ikemuraのもと Guest Studentとして研修
2014年 公益財団法人野村財団上半期芸術文化助成(ドイツ)
2015年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程油画領域 在籍

【主な展覧会 / 受賞】

- 2004年 「第1回現代美術コンクールー出会い系サイトとしての美術：森村泰昌とともに鍛える、あなたの表現」
グランプリ 大阪府立現代美術センター(大阪)
2005年 「群馬青年ビエンナーレ'05」群馬県立近代美術館(群馬)
2009年 「鏡のすき間」PANTALOON(大阪)
2010年 「VOCA展2010ー新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)
2011年 「室内模様」STANDING PINE(名古屋)
2013年 「Rundgang」Universität der Künste Berlin(ドイツ、ベルリン)
2015年 「You」Gallery PARC(京都)
2016年 「House of Day, House of Night(昼の家、夜の家)」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(京都)



左: 「portrait-Diana and Venus」2011年
染料, 蠟による防染, インクジェットプリント, シルクサテン
右: 「portrait-Blue」2011年
染料, 蠟による防染, シルクサテン

2016年 「INTERIM SHOW 2016」京都市立芸術大学 新研究棟（京都）
URL: <http://yuki-nishiyama.com>

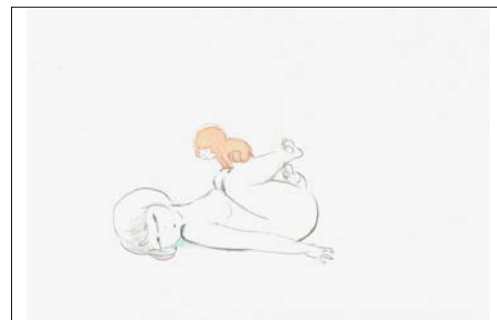
近藤聡乃

Akino KONDOH

1980年 千葉県生まれ
2003年 多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業
2008年 文化庁新進芸術家海外研修制度派遣研修員（アメリカ）
2011年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（アメリカ）

【主な展覧会】

2006年 個展「てんとう虫のおとむらい」ミヅマアートギャラリー（東京）
2007年 個展「hint」Taché-Lévy Gallery（ベルギー、ブリュッセル）
「Contemporary Outlook: Japan」Museum of Fine Arts, Boston（アメリカ、ボストン）
「Thermocline of Art—New Asian Waves」ZKM（ドイツ、カールスルーエ）
2008年 個展「果肉」ミヅマアートギャラリー（東京）
2010年 「DOMANI・明日展 2010」国立新美術館（東京）
「YouTube Play: Biennale of Creative Video」グッゲンハイム美術館（アメリカ、ニューヨーク）
2011年 個展「KiyaKiya」ミヅマアートギャラリー（東京）
2012年 「Planete Manga! (at Studio 13/16)」Centre Pompidou（フランス、パリ）
2013年 個展「KiyaKiya 1/15 秒」galleri s.e（ノルウェー、ベルゲン）
2014年 「ゴー・ビトゥイーンズ展：こどもを通して見る世界」森美術館（東京）他3会場へ巡回
URL: <http://akinokondoh.com/>



「KiyaKiya_sketch_2009_2」2009年
紙に鉛筆、水彩絵の具
Courtesy the artist and Mizuma Art Gallery

加藤大介

Daisuke KATO

1985年 神奈川県生まれ
2009年 東京藝術大学彫刻科卒業
2011年 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
2013年 東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻修了
2014年 公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員（ドイツ）
2014-2015年 文化庁新進芸術家海外留学制度派遣研修員（ドイツ）

【主な展覧会】

2009年 「第5回 アトリエの末裔あるいは未来展」旧平櫛田中邸（東京）
2010年 「トーキョーワンダーウォール公募 2010」東京都現代美術館（東京）
2011年 個展「今は見える」INAX gallery（現 LIXIL gallery）（東京）
2012年 「第15回 岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
個展「夜明け前の子供たち」fuma contemporary（東京）
2013年 「漆芸の未来を拓く -生新の時 2013-」石川県輪島漆芸美術館（石川）
2015年 「第10回 アトリエの末裔あるいは未来展」旧平櫛田中邸（東京）
URL: <http://www.daisukekato.com>



「gone」2015年
漆、和紙、銅